

研究室訪問（2年生対象） ～大学での研究活動をより具体的に知る～

7月15日（金）の授業終了後、近畿大学の井田民男先生の研究室を訪問しました。

井田先生は、バイオコークス*研究の第一人者です。実は淀工の大先輩であり、現役の高校生にとってはまさに「生きた伝説」のような存在です。

※バイオコークス：台所等から出る植物性廃棄物をリサイクルして作った固形燃料のこと。

今回の訪問は、2年生に開講されている「大学連携」という授業の一環で実現しました。もちろん、淀工工学系だけのオリジナルな取り組みで、2年生の希望者を対象に、特別に時間を割いていただきました。

研究・実験装置の紹介はもちろんのこと、学生の皆さんの居室にまで足を踏み入れ、大学院生や研究員の方々の生の声を聞かせてもらいました。

放課後の短い時間ではありましたが、オープンキャンパスでは知ることのできない、大学での研究生活の楽しさや厳しさを垣間見ることができました。



生徒たちの感想（抜粋）

- 研究に対する熱意がひしひしと伝わり、感銘を受けた。
- 研究室に泊りこんで研究されていて、気持ちの入りようがとてすごいと思った。
- バイオコークスの話はちょっと難しかった。施設は高校とは比べものにならないほど広く、勉強も比べものにならないくらい難しそうだった。
- 井田先生と大学での研究に、とても親近感が湧いた。
- 高校までの勉強と違って、大学の研究は自分がやりたいところまで研究できる。
- 「英語はとても大切だ」ということが、とてもわかった。
- 単に燃料だけでなく、災害時の輸送量削減にまで応用していて、生活に直接的に関わっていて、とてもかっこいいことをしているなと思った。
- オープンキャンパスでは見られない「ありのままの研究室」が見られて良かった。
- 研究室や学生さんから聞く話など、全てが初めてのことで、大学生になるのが楽しみ。
- 大学4年間のその後の進路について考えさせられた。